

2022年3月期第3四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: 通信計測事業の3Qの受注動向はどうだったのか？

A1: 主力のスマホ、チップセット開発やデータセンター関連に対する受注は計画通りですが、短納期を要求するスマホ製造顧客からの受注が獲得できませんでした。また、北米のCバンドの基地局建設保守需要が想定通りに出てきませんでした。

Q2: 半導体・部品不足の状況はどの程度の期間継続すると見ているのか？

A2: 来年度も調達難は続くという情報を得ており、一部の主要部品については来年度に向けても逼迫が続く可能性があると見ています。

Q3: Cバンドの需要としては、端末開発用は予定通りあるが、基地局建設向けだけが遅れているということか？

A3: 端末開発需要については、米国、韓国、日本のスマホベンダーからの需要は好調であり、キャリアの受入試験需要としても堅調に推移しています。基地局建設保守については、電波干渉問題でサービス開始に1か月以上の遅延が発生しており、需要に影響が出ていると捉えています。

Q4: 来年度の受注について、どのようなものを見込んでいるのか？

A4: 北米のCバンド向けを含めた5Gチップセットおよびスマホや、IoT用通信モジュールの開発需要は引き続き好調に推移すると考えています。また、2022年度以降は、いままでは遅れていた欧州での5Gサービスの展開が進むことが期待でき、欧州向けの端末開発の需要にも注力していきます。

Q5: 中計のESG目標にもあるサプライチェーン・デューデリジェンスの進捗状況は？

A5: 中計期間の3年間（FY2021-FY2023）で10社に対しデューデリジェンスを行う計画に対して、2021年12月末の時点で2社の往査が完了しています。また、2022年1月から3月には国内1社、海外3社の実施を予定しています。